オピニオン

熱いソウルを見よ！

第一回アジア選手権を前に

みちの会
高橋善徳

高橋善徳

7 月 25 日から 7 月 30 日にかけて、韓国のソウル市にてアジア選手権の第１回大会が開催される。
日本からは高橋善徳、番場洋子をはじめとしてナショナルチーム内外から総勢 15 名（男子６名、女子８名、オフィシャル１名）の選手団が派遣される。初代のアジアチャンピオンを決定する大会に世界各国から注目が集まっている。

オリエンテーリングの中心地

私たちオリエンティアが愛好するオリエンテーリングはヨーロッパ発祥のスポーツであり、本場ヨーロッパでは文化としてオリエンテーリングが根付いている地域も少なくない。世界中のオリエンティアが一堂に会するオーリンゲン（スウェーデンの 5 日間大会）や世界最大のリレー大会であるユッコラ（フィンランドで行われるリレー大会）が数万人の参加者を集めて毎年開催されていることを知る人も多いだろう。

ヨーロッパはオリエンテーリングの盛んな地域であるが、愛好家が多いだけではなく、競技面でのレベルも桁違いに高い。陸上競技で代表になり、マラソンやトラック競技でオリンピックに出場するレベルの選手がナショナルチームにいる場合さえある。

長期遠征から見えたもの

私は 2003 年の春から夏にかけてヨーロッパ長期遠征を行った。ヨーロッパの様々な国でオリエンテーリングを経験し、フィンランドでは地元のクラブチームに所属して毎日を過ごした。

その遠征の中でオリエンテーリングの競技レベルを向上させるために大切だと感じたことが一つある。それは、高い競技レベルの集団と（出来れば日常的に）競うことである。

近年、チェコ共和国をはじめとした東欧、そしてバルト三国の選手の競技力向上が目覚しいといわれている。経済状況が以前より改善した東欧の選手の中には、留学などの機会を利用して北欧に移り住むものもいる。彼らはスーパーエリートが集まる北欧で切磋琢磨しながらトレーニングを続け、徐々に世界トップレベルのナビゲーション能力を獲得しているのである。

日本の課題と可能性

オリエンテーリングの中心地であるヨーロッパから遠く離れ、地理的な側面で恵まれていない日本を活動の場とする私たちは、どうやってヨーロッパの選手たちと伍して戦う競技力をつければ良いのだろうか。まず考えられるのが、何らかの手段（留学・休学・休職等）を用いてヨーロッパに移住・長期遠征し、競技力を上げる方法である。

過去にもヨーロッパに渡った何人かの日本人選手がそのような方法で能力を開花させた。彼ら（彼女ら）のオリエンテーリングにかける情熱はすばらしいし、周囲の理解やサポートも大変すばらしいものだと思う。しかし、多くの日本人選手はそこまで恵まれた環境でないのが現状だろう。

ではどうすれば、地理的なマイナス面の中で能力を上げることが出来るのだろうか。私はアジア地域の選手たちが切磋琢磨して競技力を引き上げ合えば良いのではないかと思う。

例えば、われわれが大学でオリエンテーリングを始める場合、その環境は大学によって大きく異なる。伝統校で強くなるためのノウハウを沢山持っている大学では選手が強くなる可能性が高く、そうではない大学では自己流で日々努力を重ねたとしても、いきなりインカレという檜舞台で名を残すことは難しい。地方の大学ならまず、地方で開かれるイベントに参加し、そこで地域の仲間と切磋琢磨し、合宿などで交流を図り、ライバルを作り、憧れの先輩を目指し、そして徐々に成果を上げ、自信をつけてインカレへと望み、成果を上げるのではないだろうか。また、インカレを見て何かを感じた若い選手がインカレで活躍することを夢見、実現可能な夢の舞台として、インカレを盛り上げようとするだろう。日本にとってそういう場が、このアジア選手権だと思うのである。

第一回目のアジア選手権

今年初めて行われるアジア選手権にはナショナルチーム内外から意欲ある選手が沢山参戦することになった。日本代表チームが目指す最終的な目標は世界選手権での活躍であるが、その一歩を踏み出すべく、このアジア選手権に全力を尽くしたい。

日本はアジアの中ではオリエンテーリング先進国であるが、アジアチャンピオンになるのは実は容易では無いことを付け加えておく。他国にはオリンピックの陸上種目に出場した選手もいるし、特に中国には近年の世界選手権で日本選手と同等の成績を収めている選手も存在するためだ。初のアジア選手権で日本人選手がアジアチャンピオンの栄冠を手に入れることが出来るのか？そういう点でも日本の多くのオリエンティアの方に注目していただきたいと思う。

最後になりましたが、選手一同精いっぱい走ります。応援宜しくお願いいたします！

（高橋善徳）